

## 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の説明

### 健康な心と体

- 自分がやりたいこと、没頭できる遊びをすることで、心も体も十分に働かせ、充実感をもつことができます。
- また、遊んだあとは手を洗う、暑くなったら上着を脱ぐなど、生活の中で繰り返し行うことで、「次は何をするのか」、「なぜ」するのかといったことを知り、生活の仕方を知ったり、見通しをもったりするようになります。

- 子どもは身近な環境に関わりながら遊びを見つけます。遊びながら、どうしたらうまくいくのか、自分は何をしなければいけないのか、目的を達成するために、考えたり、工夫したりします。ときには、うまくいかずに嫌になるときも、あきらめずにがんばることで、達成感を味わい、自信をもつようになります。

### 協同性

- 友達と関わる中で、刺激を受けたり、あこがれの気持ちをもったりしながら、難しいことにも挑戦していくようになります。
- 遊びながら、友達と気持ちや考えを共有し、ときには相手に譲ったり、譲ってもらったりしながら、共通の目的に向かって協力することの楽しさを実感していきます。

- 友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことがわかっていくようになります。互いに自分の思いを主張して衝突することもありますが、それでも友達と一緒に遊びたいときは「折り合いを付ける」という体験をします。
- そのような経験をしながら、ルールを理解したり、その必要性に気付いたり、自分の気持ちを調整したり、人への思いやりの気持ちをもつようになります。

### 社会生活との関わり

- 家族や地域の人など、人とふれあう中で、人との様々な関わり方に気付きます。
- 公園や地域の公共施設などに出かけ、自分で体験しながら、公共の場所や施設を大切に使うことも覚えます。
- 生活の中で、遊びや生活に必要な情報を、インターネットなどで取り入れ、情報を伝え合ったり活用したりするなどして、社会とのつながりを意識するようになります。

### 思考力の芽生え

- 身近な環境に関わる中で、不思議なことや面白いことに出会い、好奇心を感じて探究するようになります。「なぜ?」「どうして?」と自分で調べたり試したりしながら、物事の規則性に気付き、物事についてよく考えるようになります。
- 友達の様々な考えにふれる中で、自分とは違う考え方に気付き、考え直したり、友達と一緒に考えたりします。自分の考えをよりよいものにするために、考えたり試したり、友達と議論したりなど、そのプロセスに学びがあります。

- 子どもが出会う環境には、人工物と自然物がありますが、自然物は一つとして同じものはなく、匂い、感触など子どもの好奇心をかきたてます。
- 身近な動植物にふれ、接し方を知り、考え、愛着をもち、命あるものとしていたわり、大切にすることがもてるようになります。

### 自然との関わり・生命尊重

### 数量・図形、文字等への関心、感覚

- 遊びや生活の中で、数や図形、標識や文字にふれ、3～4歳くらいになると、それらを使うようになります。
- 文字は一つ一つ形が異なることに気付き、文字がわかったり、読み方を知ったりします。
- 文字や数などをわかる喜びや使う楽しさから、その必要性を感じ、興味や関心、感覚をもつようになります。

- 言葉は、子どもが自分の気持ちを伝えたり、おとなの言葉を聞いたり、また絵本や物語の言葉にふれたりすることで育っていきます。日々の生活の中で、言葉にふれ、刺激を受け、様々な場面や活動の中で、意味と表現をセットにして身に付けていき、言葉による伝え合いを楽しむようになります。

### 言葉による伝え合い

### 豊かな感性と表現

- 美しいものや優れたもの、心を動かす出来事などに出会ったとき、そこから何かを感じとる心を「感性」と言います。様々な思いや感情をいろいろなものを使って表すことを「表現」と言います。
- 生活の中で、喜びや感動、驚きなどを味わうことで、感性は豊かになり、子どもの心は動き、表現したくなります。その表現方法は、身振りで表したり、絵を描いたり、何かを作ったり…。大事なことは、上手に表現することではなく、自分なりに表現することを楽しむことです。そして、まわりのおとなは温かく受け止めることです。